
ナルシストの末路

KMY

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナルシストの末路

【Nコード】

N9782A

【作者名】

KMY

【あらすじ】

世界一のナルシストの隠岐山唸の末路。あなたも、ナルシストの一日を体験してみませんか。

隠岐山唸おきやまじなのは、一ノ谷小学校の中で一番、というか世界一のナルシストである。彼の日常生活を覗いてみよう。

「おはよう。」

母が、言う。しかし、唸は、「ころにゃくん」と猫の真似をして居間に来た。

「なんで猫の真似をやってるの。」

「朝の猫は顔を洗わないからです。」

ナルシスト。それは、自分を崇高に見られたい存在。

「おはよう。」

友達が、校庭で彼を見て言う。しかし、唸は、持っていた仏像の頬に顔をすりすりする。

「なんで仏像の頬をなすってるの。」

「朝の空は黄色いからです。」

ナルシスト。それは、自分を崇高に見られたい存在。

「では、これより朝の会を始めます。起立。」

先生が、クラス全員に向かって言う。しかし、唸だけは、立たない。

「なぜ立たない。」

「地球温暖化を防止する椅子の木材に愛の手を。」

ナルシスト。それは、自分を崇高に見られたい存在。

「では、隠岐山。この質問に答えなさい。3足す5は？」

算数の先生が、唸を当てて言う。しかし、唸は、立たず、何も言わない。

「なぜ答えない。基本的な問題だぞ。」

「私の人生は数字の6に座っているのです。」
ナルシスト。それは、自分を崇高に見られたい存在。

「では、あいさつをしましょう。手を合わせていただきます。」
日番が教壇の前で言う。しかし、唸だけは手を合わせようとすらしめない。

「隠岐山君、手を合わせてよ。」

「食べ物にかける物は自分の息であります。」

ナルシスト。それは、自分を崇高に見られたい存在。

「これで帰りの会を終わります。皆さん、立って、一緒にさよなら。」

先生が、クラス全員に向かって言う。しかし、唸だけは、立ちとうすらもしない。

「なぜ立たない。」

「はなくそは自分でぼろつと落ちる運命なのです。」

ナルシスト。それは、自分を崇高に見られたい存在。

「おやすみ。」

母が、ベットで横になった唸の前で言う。しかし、唸は何も言わない。

「あんたもおやすみって言いなさいよ。」

「寝る前に部屋の4つの壁を見て天井を見れば幽霊が出るからです。」

ナルシスト。それは、自分を崇高に見られたい存在。

寝顔だけはさすがにかわいい。

母は、後ろに隠していた包丁を出し、寝ている唸の腹に突き刺す。血が、でてくる。たくさん出てくる。心臓の音が1つになった時、

母は言った。

「崇高すぎ。」

ナルシスト。それは、自分を崇高に見られたい存在。

自分を崇高に見られた。

しかし、それは釈迦の話であり、キリストの話であり、マホメットの話でもある。

崇高。

(後書き)

こういう変な話を書くのは初めてです。
ご了承ください。

みんな、みんな、ナルシストなのです。
それと、濁点の点は本当にすみません。
ぼく、濁点わかんないんです。

一応、詩風に書いてみましたが、小説です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9782a/>

ナルシストの末路

2011年2月1日03時58分発行